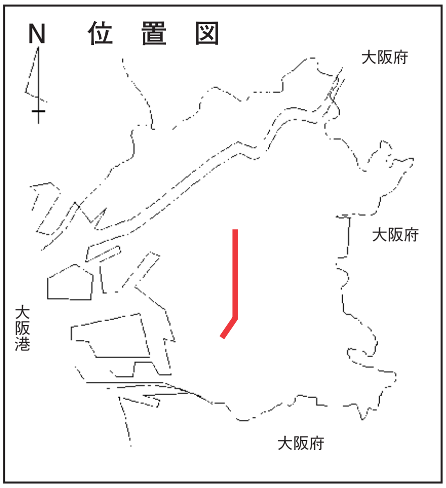
御堂筋完成 80 周年記念事業

大阪市　建設局　道路部　道路課

1．はじめに

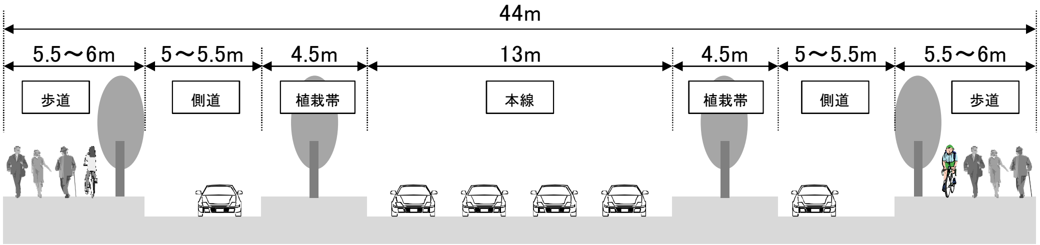
御堂筋は、大阪市を南北に貫く大幹線道路であり、国道 25 号と国道 176 号から構成される道路で、北区にある阪急百貨店前から中央区にある難波駅前までの間を「御堂筋」という愛称で呼んでおり、市民の方に親しまれている（図－1）。



図－1　大阪市における「御堂筋」の位置

御堂筋は、全長約 4.2km、幅員 44m の道路で、南行き一方通行の交通規制がかけられており、車道の両側には側道を設置し、沿道の建物に車が寄り付きやすいように設計されている（図－2）。

拡幅以前の御堂筋は、幅員 6m、北の中央区淡路町から南の中央区長堀まで約 1.3km の狭く短い道路であったが、大正 12 年（1923 年）に就任した關市長は、100 年先の都市の発展を見据え「都市大改造計画」を策定し、この御堂筋を幅 44m、延長約 4.2km の道に改造し、あわせて道路の下に地下鉄を走らせるというプランを打ち出し、事業に着手した。



図－2　御堂筋の断面構成

着工より 11 年後、昭和 12 年（1937 年）5 月 11 日、御堂筋の拡幅工事は完成した（写真－1）。完成時には、シンボルとも言えるイチョウ並木約 900 本を植えられるなど、全長約 4.2km の直線道路と開放感のある道幅に加え、自然溢れる並木道が、御堂筋を世界でも類をみない美しい道としている。

写真－1　拡幅当時の御堂筋
（出典：大阪歴史博物館）

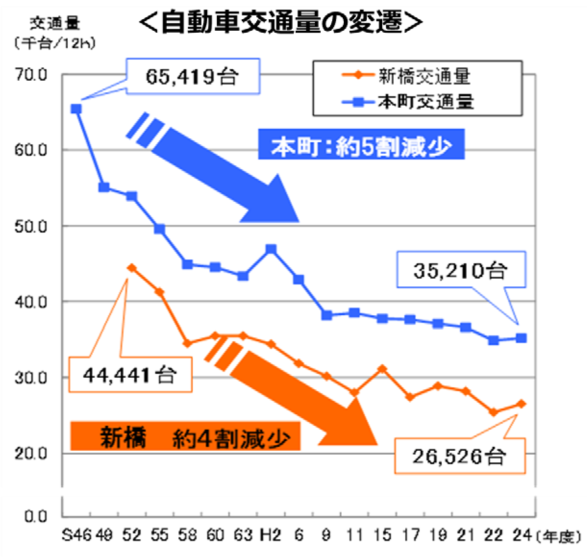
昭和 12 年（1937 年）に開通された当時は対面通行であった御堂筋も時代とともに交通量が増加し、昭和 40 年（1965 年）頃の空前のマイカーブームにより広大な幅員を誇る御堂筋も混雑が目立ち始め、昭和 45 年（1970 年）の大阪万国博覧会を契機に、渋滞の緩和と事故防止の抜本的な対策として一方通行化され、現在の姿に近いかたちとなった。

御堂筋は、大幹線道路としてこれまで大阪の経済成長を支え、今日の大阪の発展に多大なる貢献を果たしてきた。近年では、商業施

設やホテルなど賑わい施設が御堂筋沿道に進出するようになり、周辺のまちの状況も大きく変化を見せるとともに、人々が御堂筋に対して求める機能も、憩いや賑わいなど多様化してきている。

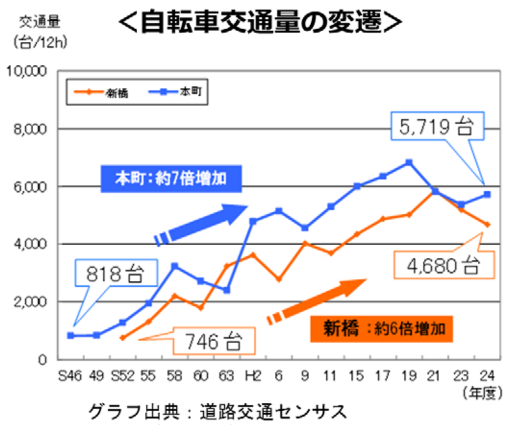
各地でも国内外を含めた都市間競争の激化、道路空間を活用した都市の魅力を高める取組みが進展しており、御堂筋においても、道路を全面通行止めして実施する御堂筋オータムパーティーや光のイルミネーションといった賑わい空間を創出する取組みを進めているところであり、今後も御堂筋に課せられる役割は大きく、御堂筋の強みを発揮したまちづくりが求められている。

また、グローバル化や少子高齢化社会の進展をはじめ、交通量の変化や交通手段の多様化など社会情勢が大きく変化してきている。現在の御堂筋における交通に目を向けると、自動車交通量（図－3）は約40年前に比べ4割～5割減少している一方、歩行者・自転車交通量は増加傾向を示しており、特に自転車交通量（図－4）は約40年前に比べ6倍～7倍と大きく増加しており、放置自転車や歩道上における歩行者と自転車の錯綜等の交通上の問題が深刻化している。



グラフ出典：道路交通センサス
（一部データは道路管理者による独自調査）

図－3　御堂筋の自動車交通量の変遷



グラフ出典：道路交通センサス
（一部データは道路管理者による独自調査）

図－4　御堂筋の自転車交通量の変遷

このような背景のもと、大阪市では、「車重視の道路空間から人重視の道路空間へ」をコンセプトに、社会の変化や時代の要請に対応した新たな御堂筋へと道路空間を再編すべく検討、議論を進めてきたところである。

2．事業概要

昭和12年（1937年）に完成した御堂筋は、平成29年（2017年）5月11日に完成後80周年を迎えた。道路管理者権限が国から市に移管されて以降、初めての節目となる年を契機として、市民とともに「みち」から未来を考えることをコンセプトに、これまで御堂筋が果たしてきた役割・功績を振り返るとともに、御堂筋を取り巻く現状や進行中の取組みを踏まえ、人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、公民連携したまちづくりのあり方等を議論することを目的に御堂筋完成80周年記念事業を実施した。

本記念事業を実施するにあたっては、大阪市長をトップとする御堂筋完成80周年記念事業推進委員会と、大阪市副市長をトップとする同実行委員会を組織し、国、大阪市といった公共団体と、経済団体や御堂筋沿道のエリアマネジメント団体などの民間団体が参画し、公民で検討、議論を重ねながら、本事業に取り組んできた。

3．事業内容

本記念事業では、人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、公民連携したまちづくりのあり方を議論していくため、シンポジウムをはじめ、ワークショップや将来イメージを現地で可視化した社会実験等を通じて、市民の意見を幅広く取り入れながら、市民とともに御堂筋の将来像を考え、新たな公民連携の仕組みづくりを見据えた「御堂筋の将来ビジョン」を策定することとしている。

以降、主な事業についての実施内容を紹介する。

（1）シンポジウム

本記念事業のメインイベントとして、御堂筋が完成した5月11日の春の企画をはじめとして、夏の企画、秋の企画と計3回のシンポジウムを実施した。

写真－2　春のシンポジウム

春の企画においては、有識者による基調講演を実施したほか、本市と同様にメインストリートを持つ近隣政令都市である京都市、神戸市の市長を招き、「歩いて楽しめるまちへ！」をテーマに、メインストリートの活性化の取組みやこれからのまちづくりに関するパネルディスカッションを実施した（写真－2）。その中で、「世界最新モデルとなる人中心のストリート」に変えていくことが御堂筋の目指すべき将来像という、御堂筋における将来の展望が示された。

写真－3　夏のシンポジウム

また、8月29日に実施した夏の企画では、語りと映像と生演奏による「語り部シアター・御堂筋ものがたり」において、御堂筋をはじめとした大阪の歴史や文化に関する内容を発信したほか、「道路空間を活用したにぎわいの創出」をテーマとして、地域でにぎわいの創出に取り組んでいる有識者、学生、エリアマネジメント団体等の方々とともに、曽根崎地下歩道の活用方策をはじめ、地下空間の活用、公民連携のあり方について議論した（写真－3）。

最後のシンポジウムとなった11月20日の秋の企画においては、これまで実施してきた本事業の取組み報告を行うとともに、御堂筋の将来ビジョンの取りまとめに向け、「世界最新モデルとなる人中心のストリートへ！」をテーマに、健康・医療・スポーツ・芸術・まちづくりの各分野の有識者を招き、御堂筋の未来についてパネルディスカッションを実施した。

（2）ワークショップ

ワークショップにおいては、学識経験者、民間団体、市民の方など様々な方々にメンバーとなっていただき、御堂筋が備えている資質をあらゆる角度から見つめなおし、それぞれの視点から今後の御堂筋のあり方を考えていくことを目的に、「人中心の道路づくり」、「道路における公民連携」、「安全で楽しい自転車利用」、「地下空間の利活用」、「世界に誇るイチョウ並木の育成」、「水の都・大阪」といった御堂筋に関わりが深い6つのテーマを設定し、意見交換会や座談会形式等を通じて、今後の御堂筋のあり方について議論した。

① 人中心の道路づくり

人中心の道路づくりワークショップでは、これまでの道路空間再編における調査研究の成果発表をするとともに、「空間デザイン」、「利活用制度」、「実現可能性・リスク」をテーマに技術的な課題や法制度、体制などについてグループディスカッションを実施した（写真－4）。

写真－4　人中心の道路づくり WS

このワークショップでは、「安全性の確保などに関する技術的な課題や、道路占用の特例制度等を活用したにぎわいの創出やその仕組みづくり」といった課題や、「利害関係者や管理者間で情報共有を行う場づくり、仕組みづくり」が必要という 2 つの課題を継続して検討すべき事項と設定され、引き続き課題解決に向けた検討の場として、京阪神 3 都市道路連携会議を設置することとした。

それをうけ、神戸市、京都市の取組みの現地視察を実施し、9 月 22 日には近畿地方整備局、京都市、神戸市、大阪市で今後の道路のあり方を考える連携会議をキックオフさせた。連携会議においては、メインストリートをはじめ、地域を活かした道づくりを進展させ、魅力的なまちづくりを展開するための施策連携等を進めていくため、「人中心の道路空間の実現に向けた取り組み」、「道路を活用した魅力的なまちづくり」などについて、今後も引き続き連携した取組みを継続していくことが確認された。

② 道路における公民連携

道路における公民連携ワークショップでは、道路空間利活用事例の情報発信や道路空間等の利活用のあり方を踏まえて、利活用主体や住民、一般道路利用者等からの意見をとりまとめ、御堂筋の将来像につなげていくことを目的に実施した。

このワークショップでは、市民向けパネル展示や市民アンケートを実施するとともに、座談会や、町会、御堂筋周辺の地元団体、エリアマネジメント団体等の地域関係団体との意見交換会を通して、公民連携や道路空間の利活用のあり方に関する意見など、御堂筋の将来像に関する意見をいただいた（写真－5）。

写真－5　道路における公民連携 WS

③ 安全で楽しい自転車利用

安全で楽しい自転車利用ワークショップでは、安全で楽しい自転車利用環境の創出に向けて、市民・利用者目線から考えることを目的に実施した。

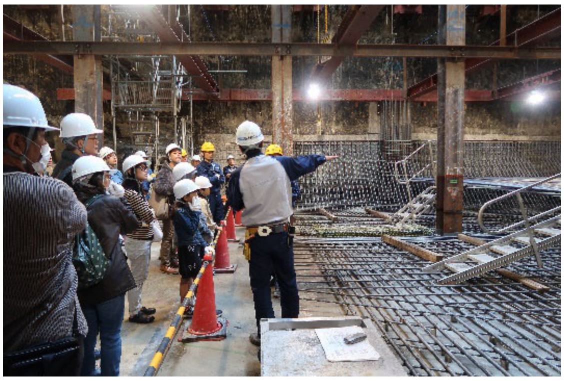
このワークショップでは、今後の大阪市における自転車施策について、観光や環境、健康などの様々な視点から、自転車活用の促進をさせるため、「利用ニーズの把握」、「自転車活用方策案に関する意見交換」をテーマにワークショップを実施しており、御堂筋をはじめとした都心から夢洲等の市内各地へつながる楽しい自転車ネットワークの形成につなげていくため、今回いただいた意見等をふまえ、今後も継続して検討していくことが確認された（写真－6）。

写真－6　安全で楽しい自転車利用 WS

④　**地下空間の利活用**

地下空間の利活用ワークショップでは、高度な地下空間利用についての情報発信を行うとともに、ドローンやICTなど新技術の活用に関する課題について考えることを目的に実施した。

このワークショップでは、NTTとう道施設や大阪駅前地下道工事現場（写真－7）等、普段みることができない場所の見学会や様々な地下空間の利用に関するパネル展を通して、高度な地下空間利活用に関する情報発信を行った。



写真－7　大阪駅前地下道工事現場見学会

また、ドローンやICTなど新技術の活用に関するワークショップでは、ドローンを活用した点検調査､非破壊診断､交通量調査など､新技術を活用した新たな取組みにつなげていくことが確認された。

⑤　**世界に誇るイチョウ並木の育成**

世界に誇るイチョウ並木の育成ワークショップでは、長きにわたり守られてきたイチョウ並木を知り、これからの御堂筋の緑空間のあり方を考えることを目的に実施した。

このワークショップでは、市政モニターやパネルディスカッションを通じて、イチョウのあり方や御堂筋における緑空間の将来像を議論するとともに、イチョウ募金の創設を行い、今後のイチョウ並木の育成に活用していくことが確認された。

⑥　**水の都・大阪**

水の都・大阪ワークショップでは、道頓堀川を中心とした水の都・大阪の歴史、魅力等を情報発信し、水辺利用者等の意見を聴取し、水辺の未来を考えることを目的に実施した。

このワークショップでは、水辺体験イベントや写真・絵画展、パネル展を通して、水の都・大阪の歴史、魅力を情報発信するとともに、御堂筋とつながる道頓堀川を中心に、水辺とみちの回遊性向上に関する検討会を実施しており、このような取組みを通じて、今後の回遊性向上に向けた取組みに活かしていくことが確認された。

（3）社会実験

御堂筋の将来ビジョン策定にあたっては、上述のシンポジウムやワークショップで幅広く市民の方々の意見を取り入れるほか、将来ビジョンの一部を現地で可視化する取組みとして、以下の社会実験を実施した。

①　**モデル整備区間における賑わい創出社会実験**

本社会実験は、千日前通以南で既にモデル整備として側道閉鎖された空間において、モデル整備により拡張された歩行者・自転車通行空間を活用し、さらに魅力ある空間としての活用の可能性を検証することを目的に11月5日から20日までの計16日間実施した。

社会実験の実施にあたっては、モデル整備を実施する段階からともに取り組んできた御堂筋沿道・千日前通以南モデル区間整備協議会をはじめ、沿道の地権者の会やまちづくり団体の協力を得て、「ゆっくりすごせるお気に入りの御堂筋へ」をテーマに、「みんなが楽しめる上質なにぎわいづくり」

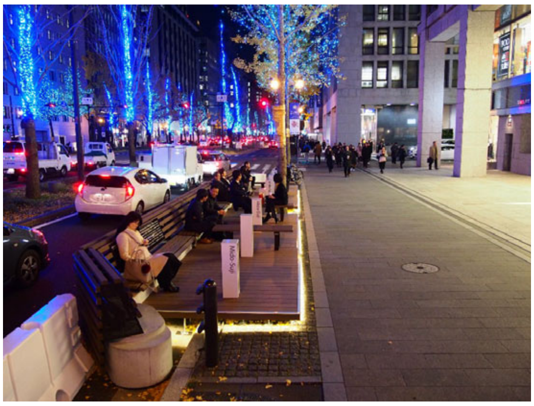
や「歩行者･自転車にやさしいストリート」をめざし、キッチンカー、マーケット、ストリートライブなどの賑わい創出に向けた取組みを行うとともに、自転車通行空間を現状の 3m から 2m にせばめ、さらに歩道を広くとることで、ベンチやテーブル、プランター等を設置し、ゆったり過ごせる滞在空間を創出するなど、これまでにない新たな取組みを実施した（写真－ 8）。

写真－ 8　滞在空間の創出

②　（仮称）御堂筋パークレット社会実験

本社会実験では、御堂筋の将来的な整備として想定される歩道拡幅を見据え、拡幅された空間における多機能、通行、滞留といった道路空間配分のあり方や利活用形態のあり方を検証することを目的に、パークレットと称される休憩施設を淀屋橋 odona 前の歩道及び車道の路側部分に設置した（写真－ 9）。

本社会実験は、11 月 20 日に供用開始して以降、概ね半年間設置するなかで、「にぎわいと憩い空間の創出方法」、「交通影響･安全性」、「広告掲出可能性」など、パークレットにおける様々なニーズを検証することとしている。



写真－ 9　（仮称）御堂筋パークレット

③　御堂筋オータムパーティーとの連携事業

御堂筋オータムパーティーにおいては、「参加型の取組み」、「こどもを対象とした取組み」といったこれまでの実行委員会での意見を踏まえ、御堂筋の将来イメージとして、憩い空間を感じさせる芝生広場を疑似的に配した芝生広場（写真－ 10）にて、未来の御堂筋で求める楽しみ方を尋ねるパネルアンケートを実施し、こどもから大人まで幅広い世代の方に参加していただくとともに、約 100 名近い方から御堂筋の未来にむけたメッセージをいただいた。

写真－ 10　芝生広場

（4）御堂筋将来ビジョン

シンポジウムをはじめ、ワークショップや社会実験等を通じて、車中心から人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、公民連携したまちづくりのあり方について議論してきた内容を踏まえ、御堂筋完成 80 周年記念事業推進委員会として、御堂筋の将来像を示した御堂筋将来ビジョン（案）をとりまとめた。

将来ビジョンの実現にあたり、まずは側道閉鎖した際における交通渋滞や荷捌き等、周辺地域に与える影響などを社会実験等により慎重に検証のうえ、側道の歩行者空間化（図－ 5）をすすめ、段階的に人中心の空間を広げていくこととしている。

図－５　側道歩行者空間化のイメージパース

その上で、最終的には、御堂筋完成100周年をターゲットイヤーとして、人中心、フルモール化（図－6）をめざすこととし、実現に向けては、今後も引き続き、御堂筋を通行していた車両が周辺道路へ迂回することに伴う渋滞等の交通影響や、緊急車両等の自動車アクセス動線の確保といった交通上の課題や、公民連携による持続可能な仕組みづくり、沿道建物の誘導など空間のあり方、にぎわいづくりの課題等について、検討と実践を推進していくことが確認された。

図－６　フルモール化イメージパース

４．おわりに

御堂筋完成80周年記念事業での取組みを一過性のものに終わらせることなく、継続的・発展的な取組みへとつないでいくために、今後、御堂筋完成80周年記念事業推進委員会でとりまとめた将来ビジョンをふまえ、パブリックコメントの上、大阪市としての御堂筋将来ビジョンを策定することとしている。

また、記念事業を通じて、公民連携をはじめとした体制構築、空間再編に対する機運の醸成を図ることができたが、今後も引き続き、継続的な対話の場、プラットフォームを構築し、公民連携して御堂筋の将来ビジョンの推進を図っていくこととしている。